

2023 年度事業活動報告

2024 年度事業計画



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

～ ご挨拶 ～

日本において、肢体不自由の子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障害児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。



ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性麻痺ですが、こうした買い替え時期を迎えたとってもったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。捨てるには車椅子の状態があまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由の子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障害のある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送って欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かさない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見たい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長 森田 祐和

2023 年度事業報告

はじめに

2023 年度の大きなトピックは、コロナ禍以降で 5 年ぶりにエチオピアでの贈呈式に当会の理事およびボランティアの 3 名が参加できたことです。現地パートナーと彼らが支援する子どもたちとのつながりを大切にしたいと考える当会としては、非常に喜ばしいできごとでした。

国内 NPO の 3 団体協同によるウクライナへの車椅子の贈呈は 5 回にわたり行われました。その台数は全体で 1,000 台以上（当会からは 101 台）となりました。ロンドン在住のジャーナリスト木村夫妻の呼びかけで始まったこの人道支援は、多くの賛同者の支援を得て実現しましたが、1,000 台を送ったことで区切りをつけることができました。

2023 年度の子車椅子の収集台数は、コロナ禍が終息したこともあって前年比 121%と回復しました。今後も堅調な収集が期待できます。

車椅子整備活動である例会についても、延べで 25 回開催することができました。これは 2 回／月以上のペースです。そのおかげで参加者数は前年比 191%の 553 人、整備完了台数は 246 台で前年比 234%となりました。

発送台数は 462 台で前年比 99%でした。これは、未整備での発送が前年比 83%と減少し、整備済での発送が 139%と増えたために総発送台数が抑えられて前年度並みとなったためです。

2023 年度の収入額は、大口の寄付金が企業からありました。また、新たな大口寄付金で支援してくれる企業も増えました。総収入は前年比 160%と大きく回復しました。

1. 車椅子収集事業

肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、今年度は「首都圏の特別支援学校」から 339 台の提供を受けました。個人からの提供も含めて 2023 年度の全収集台数は 412 台で、前年比 121%と減少傾向が改善されました。

2023 年度の子車椅子の収集台数

都・県 (学校数)	2020 年度 (学校数)		2021 年度 (学校数)		2022 年度 (学校数)		2023 年度 (学校数)	
東京 (23)	116 台	(10)	178 台	(14)	100 台	(11)	144 台	(11)
神奈川 (19)	37 台	(4)	159 台	(11)	48 台	(6)	75 台	(8)
埼玉 (10)	10 台	(1)	105 台	(6)	58 台	(4)	71 台	(5)
千葉 (6)	69 台	(5)	73 台	(4)	86 台	(5)	49 台	(3)
小計 (58)	232 台	(20)	515 台	(35)	292 台	(26)	339 台	(27)
その他学校、団体等	59 台	—	12 台	—	13 台	—	35 台	—
個人	34 台	—	32 台	—	35 台	—	38 台	—
総合計 (前年比)	325 台	(67%)	559 台	(172%)	340 台	(61%)	412 台	(121%)

(「小計」は首都圏の特別支援学校からの提供台数 学校数は 2024 年 5 月全国障害学生支援センターより)

2023年度の「首都圏エリアの特別支援学校」（前頁表中の「小計」を参照）からの車椅子の提供台数は、前年の減少から回復傾向となり339台（前年比116%）を収集することができました。その主な要因は、千葉以外のエリアで台数を伸ばすことができましたことによります。前年比では、東京が144%、神奈川が156%、埼玉が122%でした。また、提供学校数はほぼ横ばいの結果となり、支援学校の皆さんが継続して当会を支援してくださっていることがわかります。

この要因は、コロナ禍が終息して支援学校における車椅子提供活動の機運が戻ってきたことによるのではと推察します。同様に、首都圏以外の学校や一般の団体及び個人からの提供は73台、前年比152%とこちらも伸びました。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。（提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>）

○車椅子収集の様子

<埼玉県立宮代特別支援学校>



トラックが到着する前から屋根のある積み込み場所に車椅子が並べられていて、暑さ対策も万全でした。PTAの役員の皆さんが「宮代特別支援学校 2023年7月」のシールを全車椅子に貼って、更に車椅子のトラックへの積み込みも手を貸してくれました。暑い中での作業でしたが、短時間で終わることができました。30台の車椅子を引き取りました。（引き取り日：2023年7月22日）

<横浜市立若葉台特別支援学校>



すべての車椅子に当会への贈呈を示す大きなピンク色の紙が貼ってありました。学校の先生方とPTA役員の皆さんの手を借りて、車椅子7台、バギー1台、バスチェア1台を受け取りました。(引き取り日：2023年7月27日)

<千葉県立船橋夏見特別支援学校>



早朝まで降っていた雨が止んでどうにか車椅子をトラックに積み込むことができました。学校の先生方とPTAの役員の皆さんが積み込みを手伝ってくれて車椅子6台、バギー2台、立位訓練器1台を引き取りました。(引き取り日：2023年12月15日)

○2023 年度に車椅子を提供して下さった支援学校

神奈川県立平塚養護学校、横浜市立上菅田特別支援学校、埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校
東京都立小平特別支援学校、さいたま市立ひまわり特別支援学校、埼玉県立宮代特別支援学校
東京都立八王子東特別支援学校、横浜市立北綱島特別支援学校、東京都立墨東特別支援学校
千葉県立桜が丘特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、横浜市立中村特別支援学校
東京都立村山特別支援学校、横浜市立若葉台特別支援学校、東京都立鹿本学園、
船橋市立船橋特別支援学校、埼玉県立蓮田特別支援学校、神奈川県立鎌倉養護学校、
東京都立町田の丘学園、東京都立多摩桜の丘学園、埼玉県立日高特別支援学校、
上記以外の一般企業や福祉団体、個人からの車椅子の提供もあります。

○個人による車椅子の提供



(左) お子さんが使っていた車椅子2台を届けてくれた目黒区在住のSさん夫妻です。

(2023年11月26日)

(右) 日本在住のダン コク ズンさんが、友人から「ベトナムに車椅子を送るなら、これも一緒に送って欲しい」と頼まれて、状態の良いきれいな車椅子を持参してくれました。

(2023年7月9日)

上記以外に個人が当会にを届けてくれた車椅子は、38台です。



2. 車椅子整備事業

コロナ禍により例会活動が大きく制限されたのは、2022年度と同様でしたが「ミニ例会」というメンバーを限定しての少人数での活動を2回／月の頻度で開催しました。しかし、コロナ禍が下火になると参加者が増えて、整備台数も増えるようになりました。

2023年度における例会の月別開催状況

開催月	2023年									2024年			年間合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
回数	3	4	1	2	2	2	3	2	1	2	1	2	25
参加者数	59	60	36	56	47	72	60	38	26	44	16	39	553
整備台数	28	18	8	25	28	23	32	19	10	20	10	25	246

2回／月の頻度で例会を開催し、参加者人数を5～8名／チームに制限して、日程は第2、第4日曜日に固定しました。それぞれのチームに参加可能人数を打診しながら開催しました。しかし、コロナ禍が終息するとその制限も撤廃しました。これにより、活動参加者は、延べで553人と前年比191%と大幅に増えました。また、延べの整備台数も246台、前年比234%と伸ばすことができました。

<整備作業の様子>



コロナ禍が終息傾向になっても、アルコール消毒、体温測定、連絡先の記入を徹底しています。



常連の相模女子大チームは清掃、整備、梱包に大活躍してくれます。



多摩工科高校のメンバーが、作業開始前の説明を受け、そのあと全員で梱包作業に取り組んでくれました。同チームの先生方の指導が行き届き、しっかりした梱包ができました。



(左) 縫えば修復できる場合は、新たに購入した中古ミシンで補修作業をしました。
 (右) 2024年3月に放映されたNHKのネット配信番組「NHK ワールド」の取材がありました。



料理上手のSさんがお汁粉を作ってくれました。Sさんはこれ以外にも美味しい料理を作ってくれます。この日は1月15日でお正月にふさわしいもてなしでした。



(左) CMA CGM (旧アメリカンプレジデントライン) は、当会の車椅子の発送のコンテナを無償で海上輸送してくれています。この日は社員の皆さんが例会に参加してくれました。(2023年12月10日)
 (右) MFSインベストメント・マネジメント株式会社の皆さんが車椅子の整備例会に来てくれました。この日は臨時の例会でしたが、相模女子大チームが応援参加です。(2023年10月29日)



(左) ONE ジャパンの皆さんです。(2023年10月22日)
 (右) 昭島中央ロータリークラブの皆さんです。(2023年9月10日)



ブルームバーグ L.P. のみなさん

ブルームバーグ社からは、高額寄付金をいただいています。加えて、社員の皆さんからも寄付金があります。この日は、社員の皆さん13人が車椅子の清掃活動にきてくれました。会社からの移動は専用のマイクロバスでした。(2023年5月31日)



日興アセットマネジメント株式会社のみなさん

同社からは、社員の皆さんからの寄付金に加えて社員からの寄付金と同額の寄付を会社からいただいています。会社と社員の皆さんが一体となって当会を支援してくれています。この日は、社員の皆さんが、整備活動にも参加してくれました。(2023年4月2日)

3. 車椅子発送事業

コロナ禍がほぼ終息し、2023年度は6か国に送ることができました。昨年度は、未整備でおくる比率を72%まで上げることで発送台数467を達成しましたが、2023年度は未整備台数の比率を41%に抑え、整備済みの比率を28%から59%に上げて462台の発送をすることができました。これは多くのボランティアのおかげです。また、2018年以来の贈呈式参加をエチオピアで果たすことができました。

2023年度寄贈実績 (2023年4月～2024年3月まで)

ウクライナ	2023年	5月	51台	Future for Ukraine Foundation (FFU)
パキスタン(*)	2023年	6月	30台	マイルストーン特別な人のための協会
マレーシア(*)	2023年	10月	90台	サイド・プテラ氏 (元ADF代表)
エチオピア	2023年	11月	90台	Cheshire Foundation Action for Inclusion (CF-AI)
タイ(RICD)(*)	2023年	11月	20台	Rajanagarindra Institute of Child Development
パキスタン(*)	2023年	12月	51台	マイルストーン特別な人のための協会
ウクライナ	2023年	12月	40台	Future for Ukraine Foundation (FFU)
パラグアイ	2024年	3月	90台	アスンシオン・ビルモラ・ライオンズクラブ
合計			462台	

(*) パキスタン、タイ、マレーシアには車椅子を未整備のまま送付しました。

贈呈した車椅子462台のうち、191台は未整備のままパートナーに送りました。一台でも多くの車椅子

を海外に届けるために、自前で清掃・整備作業を行うことができるパートナーには未整備で送っています。

＜エチオピア Cheshire Foundation Action for Inclusion (CF-AI) への発送＞

2023年11月12日、90台の車椅子を積載したコンテナ船が東京港を出ました。当初は隣国のジブチ港を経由して、内陸国エチオピア・アジスアベバには2024年1月ころに到着の予定でした。中東情勢の緊張でコンテナ船はインド洋を迷走し1か月以上の大幅な遅れとはなりましたが、なんとか無事に到着しました。3月5日に、現地市政府主催で引渡し式が開催されました。50組以上の車椅子を待つ親子が参加しての式典です。日本からは、当会を日頃から支援してくれている東京昭島中央ロータリークラブの3名と当会の理事1名が参加しました。初めて使う車椅子を瞬く間に乗りこなし、母親を笑顔で追う子どもたちに集まった人たちからも歓声があがったと報告がありました。



多摩包装工業(株)の倉庫のパレットに車椅子が載せられてコンテナに積み込まれました。



(左) エチオピア向けのコンテナ積込みに駆けつけてくれた昭島中央ロータリークラブの皆さんが「子ども用車椅子をエチオピアへ」の横断幕を掲げてコンテナの前で記念撮影です。

エチオピア出身のアベベさんも来てくれました。

(右) 現地アジスアベバでの贈呈式の様子です。

<ウクライナ Future for Ukraine Foundation (FFU) への発送>

2023年度は、ウクライナに対して5月と12月の2回車椅子を送りました。すべてが「オールジャパンプロジェクト」と呼ばれる複数のNPO法人が協力しての発送です。発送回数は5回を数え、当会は第2便、第3便、第5便の3回で子ども用車椅子110台の提供を行いました。

オールジャパンプロジェクトの発起人であるロンドン在住のジャーナリスト木村氏によると、これまでウクライナに寄贈した日本の車椅子は、FFUに到着しそこからキーウの国立子ども病院の子どもたち、キーウ近郊のイバンキフ村にある介護施設の高齢者や障害者、西部テルノピル州の公立病院の負傷兵、子ども病院、児童養護施設の子どものたち、リシチャンスク市から避難されている方々のもとへと届けられ、すでに使用されているとのことでした。

2023年12月19日に運輸会社の大井営業所でコンテナ積み込みが行われました。黄色のテープを巻いてある車椅子が当会からの子ども用車椅子とされます

なお、オールジャパンプロジェクトはNPO法人に加えて、海運会社、運送会社などの支援を受けて実行されました。



<パラグアイ アスンシオン・ビラモラ・ライオンズクラブへの発送>

2024年3月26日(火)の早朝、パラグアイ向け90台の車椅子を積載したコンテナ船が東京港を出ました。韓国のプサンを経由して、目的地のパラグアイ・アスンシオンには5月22日ころに到着する予定です。車椅子の受け取り手は、前回と同じパラグアイのアスンシオン市に拠点を置くアスンシオン・ビラモラ・ライオンズクラブです。同クラブは、小児科、眼科など様々な医療機関や移動クリニックを運営しているグループで、今回の車椅子も大切に子どもたちに届けてくれると思います。

本プロジェクトは、2023年10月22日に始まり、2024年2月11日までの4か月を要しました。この間に8回の定例整備会を行い、ほぼ20台/月の整備台数を実現できました。多くのボランティアの皆さんに感謝申し上げます。

また、前回のパラグアイ向けプロジェクト同様、海上輸送はOcean Network Express Pte. Ltd. (ONE社)が無償提供していただきました。地球の反対側の遠い国へ車椅子を送るための海上輸送の支援をしてくださることは、当会にとってありがたいことです。



出航に先立って、2024年3月18日に羽村市でコンテナへの積み込みが行われました。集まった相模女子大のメンバーと森田会長、スタッフがパラグアイの国旗を背景に記念撮影し、トラックを見送りました。

4. 2023年度のトピックス

○ 2024年2月1日コンテナ・ヤード見学しました。

横浜本牧にある海運会社CMA CGM社のコンテナターミナルを訪問しました。同社は、日頃から整備活動参加による支援と、海上輸送の無償提供でサポートしてくれています。

見学の目的は、自分たちが整備した車椅子を積み込んだコンテナがどのようにして港に届き、海外に送られるのかを知ることです。

また、同社若手社員2名と相模女子大学生との懇談会が開催され、就職活動に関する体験や感想などを聞くことができました。学生からの積極的な質問に同社社員のお二人が丁寧に答えてくれました。今後の学生の就職活動に大きな参考となると期待します。



○ 2024年2月28日 富山のお母さんがタイの子どもに会いに行きました。

富山在住の「お母さん」が福生市の森田会長宅に2台の子ども用車椅子を、自ら車を運転して届けてくれました。その2台の車椅子は、2年前に亡くなった娘さんが使用していたものです。「この車椅子が海外の子どもに届いたら、それを受け取る子どもにぜひ会いたいです。送り先がタイなら自分で行くことができます。タイに送ることはできますか。」とのことでした。

当会の現在のタイのパートナーであるRICDの意向を確認すると「なんて素晴らしい考えだ。できる限りの協力をします！」と支援をしてくれることになりました。



(左) お母さんが提供した車椅子に乗る11歳の男の子です。右半身が少し不自由です。

(右) 同じく、6歳の女の子です。目が不自由ですが、元気いっぱいの子です。喜ぶ子どもの姿を見てお母さんはもちろん同行したスタッフもうれしくなりました。

富山のお母さんが当会に持ち込んだ車椅子を受け取ったタイの2人の子どもに会うことができました。このように車椅子を手に入れて喜ぶ子どもを一人でも増やしたいと強く思いました。

お母さんの娘さんへの思いが、タイの2人の子どもたちにつながったと思います。

5. 活動広報事業

当会の贈呈先での活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を発行しています。2023年度も2回(第29、30号)の発行を行いました。30号では5年ぶりに現地エチオピアで開催した贈呈式の様子を報告することができました。

当会のホームページでは、活動の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。 <http://www.kaigaikurumaisu.org>

さらに、当会の事業内容を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へご連絡ください。 hp-admin2@kaigaikurumaisu.org

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

6. 財務状況について

当会は運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集しています。収集した車椅子を整備し、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1.4万円かかります。その費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者(個人及び団体)の寄付金、民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

2023年度の当会の財務状況

2023年度は、企業からの予想外の大口支援が複数ありました。目立ったのは過去から継続しての米国系金融関連企業からの支援です。金額が前年の140%以上でした。また、新規での大口支援も複数の企業からありました。おかげで収入総額は、前年比160%と大幅に伸びました。一方で、会員からの会費納入は前年比93%とやや低調に終わりました。今後はさまざまな方法で当会の周知を図り、多くの個人からの寄付を募っていきたいと思います。

一方で、事業費の支出面ではほぼ前年を大きく上回る結果となりました。その理由は下記の3点と考えられます。

- ①車椅子収集台数が増え、その収集費用の増加による**収集事業費の増加(前年比145%)**
- ②例会開催回数の増加とボランティア延べ人数の倍増による**整備事業費の増加(前年比140%)**
- ③海上輸送費の高騰と渡航費の復活による**発送事業費の増加(前年比232%)**

これらにより、車椅子収集・整備・発送の事業費合計が計画比158%、前年比182%と大幅な増加となりました。

その他の管理費面では前年比105%の微増、計画比157%となりました。支出総額に占める管理費の割合は6%程度です。占める割合は少ないですが、削減を図る必要があります。

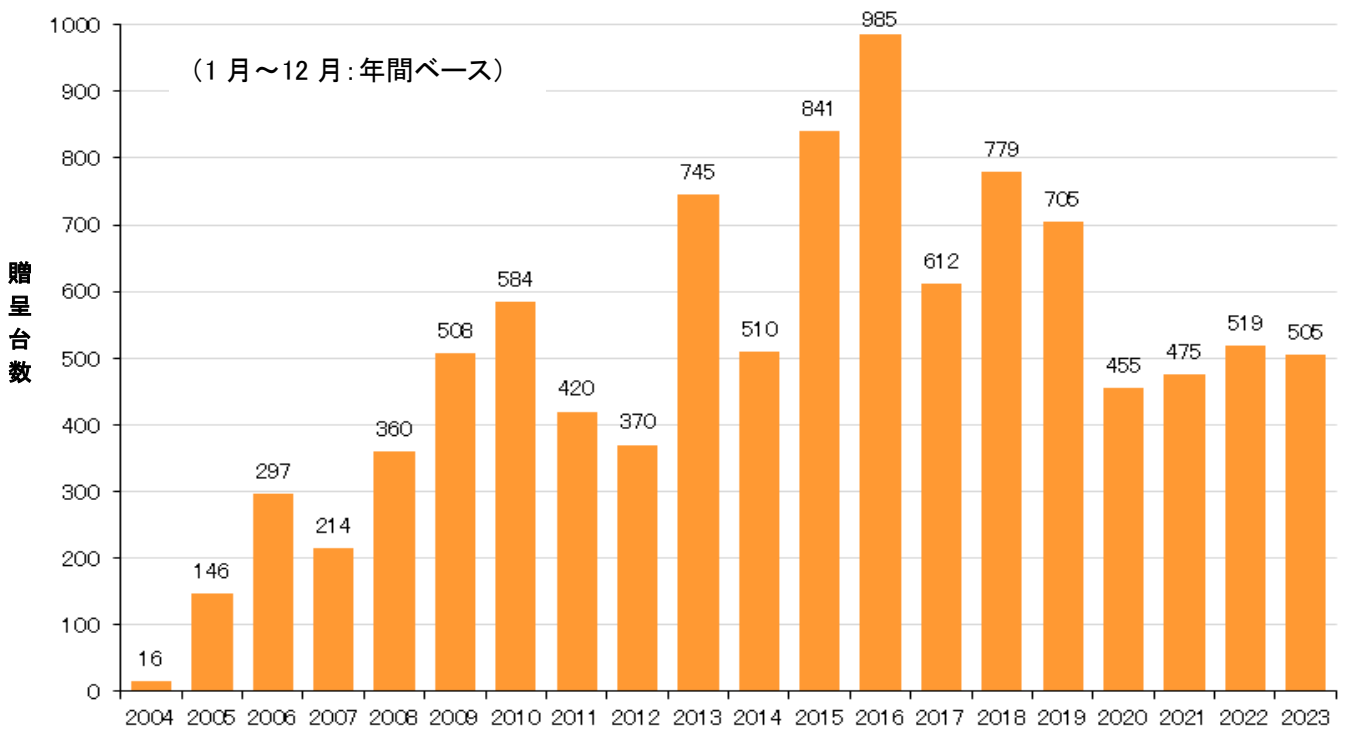
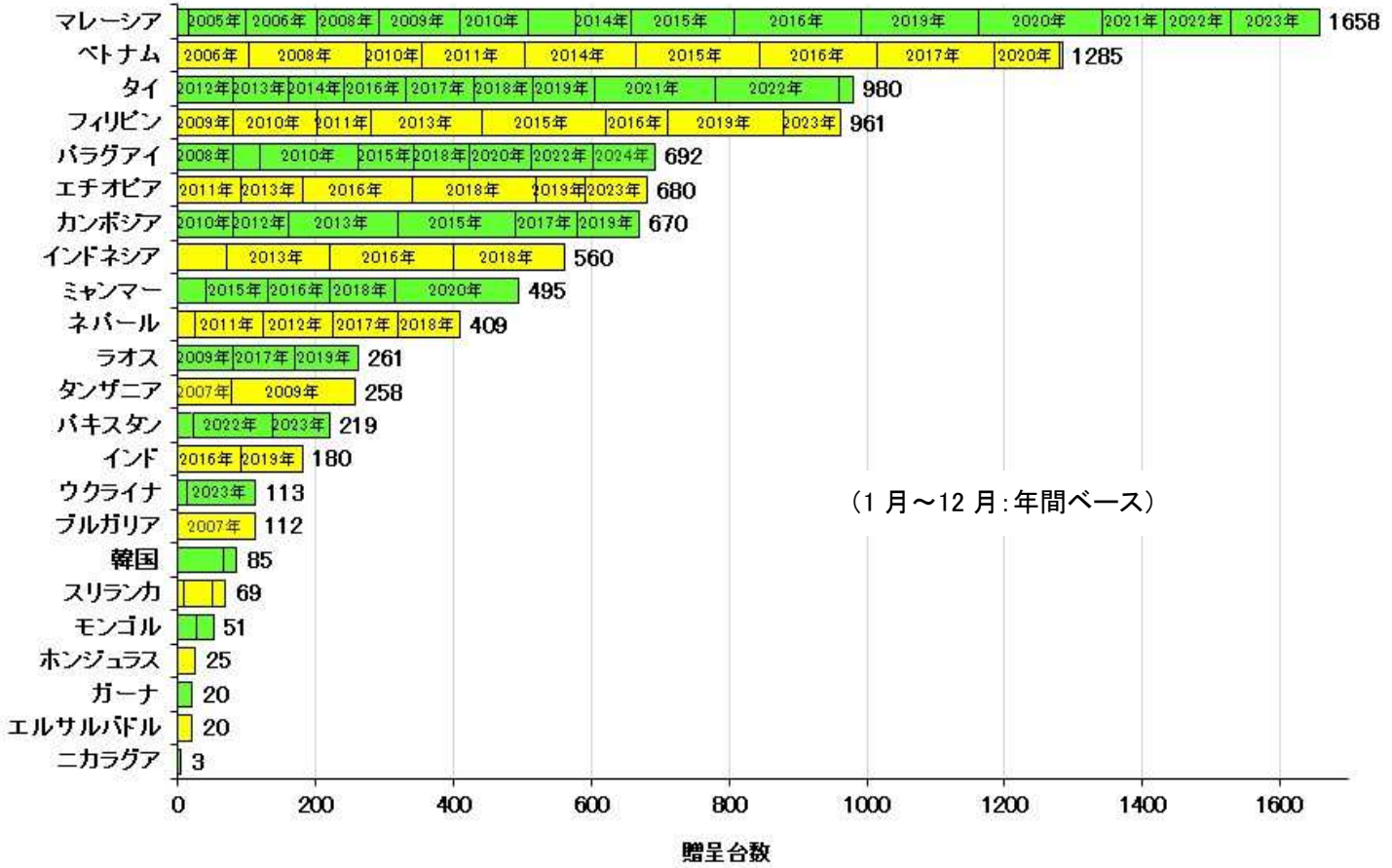
総括としては、総支出が前年比164%と伸びたものの、収入が同じように160%と伸びたことにより安定した財務状況になりました。このため、次期繰り越金も前年同様の規模を確保できました。



NPO 法人

海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 26ヶ国 9,806台 (2024年3月末現在)



2024年度 事業活動計画

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校の定期的かつ継続的な収集協力を得て、昨年度以上の台数確保を目指す。ただし、当会の倉庫の車椅子収容台数には限界があるので、在庫を見ながら収集を行う。収集目標は昨年の計画と同じ400台（前年実績比97%）以上を目指す。

2. 車椅子整備事業

- ・常連チーム（相模女子大チーム、ベトナムチーム、多摩工科高校、米軍横田基地チーム、等）を中心として、1回／月の開催を継続して開催する。
- ・1回の例会での整備完了目標台数は20として、90台／4～5か月ごとの出荷を目指す。

3. 車椅子発送事業

2023年度は、前年並みの462台を発送した。多くのボランティアの参加のおかげで、整備済みも271台と前年の倍の台数を送った。2024年度も、贈呈台数は400台（前年実績比87%）程度とし、そのうちの整備済みは250台を目指す。贈呈国数は4～6か国とする。

4. 活動資金確保活動

2023年度は予想に反して大手企業の厚い支援により財政状況はかなり豊かになったといえる。しかし、安定した基盤とするためには「薄く、広く」の考えで、支援者を継続して増やすことを心がける。出費を抑え込むことにも注力する。

- ・広報活動の拡充による会員数の増加を図る。
- ・新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す。

5. 活動拠点改善事業の取り組み

(1) 当会の倉庫であり、活動拠点となっている拝島倉庫の地面のアスファルト化については、2023年度末にその実行を決議した。2024年4月には実施する。

(2) 車椅子収容スペースの拡充

現在の倉庫の車椅子収容能力は200台程度である。この能力では、車椅子回収依頼が集中する春休み、夏休みなどでは倉庫がすぐに満杯となり、収容不能となる。こうした事態を避けるために現在の倉庫の拡張や新たな倉庫の確保を検討する。

6. 活動広報事業

- ・「活動レポート」は年間で昨年度と同様1～2回、または3回の発行を目指す。
- ・ホームページではタイムリーなお知らせやトピックスにより当会の活動の様子を周知する。

本年度も、一台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

過年度実績と2024年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

項目	2022年度		2023年度		2024年度	
	実績	前年比	実績	前年比	計画	前年比
前年度繰越金	9,646,109	143%	10,363,372	107%	11,306,743	109%
収入の部						
会費収入	274,000	69%	256,000	93%	300,000	117%
公的助成金収入						
民間助成金収入	3,092,240	125%	4,378,736	142%	2,500,000	57%
寄付金収入	2,627,298	52%	4,967,310	189%	2,500,000	50%
利息収入	62	135%	73	118%	37	51%
雑収入						
収入総額	5,993,600	75%	9,602,119	160%	5,300,037	55%
支出の部						
1. 事業費						
車椅子収集事業費	1,110,062	174%	1,609,011	145%	1,200,000	75%
車椅子整備事業費	1,306,189	109%	1,825,597	140%	1,500,000	82%
車椅子発送事業費	1,918,939	81%	4,459,125	232%	2,500,000	56%
活動広報事業費	456,547	93%	256,455	56%	300,000	117%
事業費合計	4,791,737	102%	8,150,188	170%	5,500,000	67%
2. 管理費						
事務消耗品費	30,630	148%	34,950	114%	30,000	86%
消耗品費	14,191	143%	18,049	127%	10,000	55%
水道光熱費						
旅費交通費	36,995	207%	100,106	271%	50,000	50%
支払手数料	38,450	111%	30,548	79%	30,000	98%
交際費	4,249	16%	70,730	1665%	30,000	42%
支払保険料	88,720	152%	67,200	76%	80,000	119%
通信費	51,028	139%	34,802	68%	50,000	144%
複写費	4,528	5%	88,484	1954%	50,000	57%
会議費	18,145	123%	37,591	207%	20,000	53%
諸会費						
雑費	197,664	290%	26,100	13%	0	0%
管理費合計	484,600	127%	508,560	105%	350,000	69%
総支出額	5,276,337	104%	8,658,748	164%	5,850,000	68%
次期繰越金	10,363,372	107%	11,306,743	109%	10,756,780	95%

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2023年9月 第29号



フィリピンの子どもたちに83台を贈呈へ

2023年4月 フィリピンへは2019年3月以来
3年ぶりの発送となりました。

フィリピンのパートナーであるJVR財団 (Jesus V. Del Rosario Foundation) に向けた車椅子等83台を送りました。その内訳は、車椅子(52台)、バギー(9台)、立位訓練器(6台)、座位保持装置(13台)、ストレッチャー(3台)などです。4月22日(土)にフィリピンのマニラ港に到着しました。

フィリピンのパートナーもコロナ禍のために車椅子を受け取っても子どもたちに届ける手段がないので、当面は受け取れないとのことでしたが、ようやくフィリピンにおいてもコロナ禍が下火になり受け取りが可能になったので発送を決断しました。また、同財団は、特殊な車椅子(ストレッチャーや立位訓練器、等)も活用できる病院とも連携しています。



ウクライナに三団体協同で車椅子を215台(第3便)送りました。

2023年5月 当会は、車椅子51台と歩行訓練器など10台を送りました。

ロンドン在住の木村ご夫妻の強い思いで始まったウクライナに車椅子を送るプロジェクトは第3便となりました。車椅子の提供は「希望の車いす」「飛んでけ車いす」、当会の三者で、今回も希望の車いすの谷理事長が取りまとめの労をとってくれました。準備できたのは、希望の車いすが110台、飛んでけ！車いすの会が30台、当会が子ども用51台と歩行訓練器10台です。車椅子を積載したコンテナ船は、5月に東京港を出てポーランドのグディニア港には7月10日頃に到着しています。

送り先は、ポーランドに避難しているウクライナ人の人道支援組織Future for Ukraine Foundation (FFU) です。車椅子の一部はポーランドに避難している子どもたちに届けられ、他は陸路でウクライナの子どもたちに届けられます。

このウクライナプロジェクトは、当初目標の500台(大人用、子ども用)から、現在は年末までに1,000台を送るように変更されています。当会も、引き続き子ども用車椅子を提供していく予定です。



戦争中ですので報告書を求めるのはなるべく控えています、初めて子供たちが車椅子に乗る写真が届きました。



パキスタンマイルストーン協会に未整備車椅子30台を贈呈へ

2023年6月NPO法人「さくら車いすプロジェクト」と共同で発送しました。

NPO法人さくら車いすプロジェクトの齋藤省氏から、パキスタンの「マイルストーン特別な人のための協会」に電動車椅子に加えて子ども用車椅子を送りたいので提供してもらえないかと要請がありました。今回は、車椅子4台、座位保持15台、歩行器7台、カーシート2台、立位訓練器1台、ストレッチャー1台、合計30台を送りました。これらの機器は、あまり整備等を必要としません。汚れを落としてから梱包してコンテナ積み地の坂東市へ届けました。子ども用の車椅子のみならず、いろいろなハビリ用具も入れて、見本としてパキスタンで作り始めるように促していきたいと齋藤氏から説明がありました。

坂東市でのコンテナ積み込みは6月18日に行われました。残念ながら当会からの参加者はありません。全てさくら車いすプロジェクトの関係者で行ってもらいました。コンテナは横浜港を6月25日(日)にパキスタンのカラチ港に向けて出発しました。到着したのは7月21日です。

パキスタンへの発送は2022年4月に続いて3回目です。今回の30台を加えて147台をマイルストーン特別な人のための協会へ送ったこととなります。同協会は高い技術力と力強い組織力があるので今後も車椅子を送り続けたいパートナーです。



■上記の贈呈で車椅子を提供して下さった学校等は下記のとおりです。

大泉特別支援学校、鎌倉養護学校、上菅田特別支援学校、北綱島特別支援学校、県立麻生特別支援学校、国立千葉東病院、小平特別支援学校、むらさき愛育園、さいたま市立ひまわり特別支援学校、千葉県立桜が丘特別支援学校、都立多摩桜の丘学園、都立町田の丘学園、若葉台特別支援学校、船橋特別支援学校、船橋夏見特別支援学校、松戸特別支援学校、県立平塚支援学校、川島ひばりが丘特別支援学校、都立墨東特別支援学校、府中けやきの森学園(以上20学校、等)

◀若葉台特別支援学校で車椅子の積み込みを手伝ってくれた先生とPTA役員の皆さんです。

上記の学校等に加えて、一般福祉法人や個人からの提供がありました。有難うございました

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2024年3月 第30号



マレーシアの子どもたちに90台を贈呈へ

2022年10月 2台目としての大きめの車椅子を送りました。

一人で活動を頑張っている元Aleps Dream Factory代表のサイド氏から、「障害を持つ子どもに車椅子を提供したが、成長して体に合う二台目がないので送ってほしい」との要望を受けました。要請に応じて、未整備で送り出しました。サイド氏は子ども用の車椅子製造から整備まで手掛けています。コンテナ船は11月6日にマレーシアのポートケラン港に到着しました。当会からマレーシアに送り出した総台数は1,658台となりました。



エチオピアの子どもたちに90台を送りました

紅海およびアデン湾の緊張を乗り越え、車椅子が無事にエチオピアに届きました。

2023年11月12日、90台の車椅子を積載したコンテナ船が東京港を出ました。当初は隣国のジブチ港を経由して、内陸国エチオピア・アジスアベバには2024年1月ごろに到着の予定でした。中東情勢の緊張でコンテナ船はインド洋を迷走し1カ月以上の

大幅な遅れとはなりましたが、なんとか無事に到着しました。3月5日に、現地市政府主催で引渡し式が開催されました。50組以上の車椅子を待つ親子が参加しての式典です。日本からは、当会を日頃から支援してくれている東京昭島中央ロータリークラブの3名と当会の理事1名が参加しました。

初めて使う車椅子を瞬く間に乗りこなし、母親を笑顔で追う子どもたちに集まった人たちからも歓声があがりました。

エチオピアへは、2011年以来680台を贈呈しました。



コンテナを送り出す東京昭島中央ロータリークラブの皆さんです。



引き渡し式の様子です。



NPO法人希望の車いすと一緒にタイのRICDに20台を送りました

車椅子を提供してくれたお母さんが、車椅子を受け取ったタイの子どもたちに会いに行きました。

NPO法人希望の車いすの谷理事長から「子ども用車椅子20台を提供して欲しい」と要請があり、20台を選定し希望の車いすに渡しました。当会からの20台を含んだ120台の車椅子は11月23日にタイに向け東京港を出て、タイのチェンマイのRICDには12月5日に到着しました。車椅子を提供してくれたお母さんから車椅子を受け取った子どもに会いたいと要望が届き、当会としても応援したいと考えました。RICDの熱心な協力があり、娘さんが亡くなるまで使っていた2台の車椅子を受け取ったタイの子どもたちとお母さんとの対面が実現しました。



全寮制の学校で暮らす
11歳の男子



6歳の女の子とその家族



パキスタンの子どもたちに51台を送りました

さくら車いすプロジェクトと一緒に車椅子25台、歩行訓練器12台、他51台を未整備で送りました。

さくら車いすプロジェクトの齋藤氏から、マイルストーン特別な人のための協会に電動車椅子と一緒に子ども用車椅子を再度送りたいとの要請がありました。車椅子25台、歩行訓練器12台、他の合計51台を未整備で準備しました。さくら車いすプロジェクトと当会の車椅子を載せたコンテナ船は、横浜港を12月17日にパキスタンのカラチ港に向けて出発し、カラチには2024年1月12日に到着しました。



ウクライナの子どもたちに40台を送りました

オール・ジャパン・プロジェクトの5回目の発送で、子ども用車椅子40台の提供を行いました。

ロンドン在住のジャーナリスト木村夫妻の声掛けで始まったウクライナへ車椅子を送るオール・ジャパン・プロジェクトはその発送回数が5回を数えました。2023年12月19日にコンテナに積み込まれた第5便の280台(当会はそのうちの40台)の車椅子は、12月30日に東京港からポーランドに向けて出発、同国には2月15日に到着しました。ポーランドからは陸路でウクライナに運ばれます。

木村氏によると、これまでウクライナに寄贈した日本の車椅子は、すでにキーウの国立子ども病院の子どもたち、キーウ近郊のイバンキフ村にある介護施設の高齢者や障害者、西部テルノピル州の公立病院の負傷兵、子ども病院、児童養護施設の子もたち、リシチャンスク市から避難されている人々のもとへと届けられ、それぞれ使用されているとのことです。

■上記の贈呈で車椅子を提供して下さった学校等は下記のとおりです。

宮代特別支援学校 千葉県立桜が丘特別支援学校 上菅田特別支援学校 千葉県立松戸特別支援学校 緑成会整育園通所センター 板橋むらさき愛育園 若葉台特別支援学校 川島ひばりが丘特別支援学校 八王子東特別支援学校 船橋夏見特別支援学校 神奈川県立座間養護学校 他、多くの学校からの提供です



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

www.kaigaikurumaisu.org